

2023年12月期 第2四半期 決算補足説明資料

株式会社アシックス
2023年8月8日



目次

1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 連結業績予想
6. その他

DISCLAIMER 将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しの上に全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

2023年12月期 第2四半期累計期間 連結決算ポイント①

◆全体

- ✓ **売上高**：**2,900億円**（前年同期比：+28.9%、為替影響除く：+21.7%）
 - ・第2四半期累計期間で**過去最高**。全カテゴリー、全地域において前年同期比で増収。
 - ・第2四半期（3ヶ月期間）は前年同期比+15.1%（為替影響除く：+9.9%）。工場稼働停止による供給制約からの反動増があった前年同期に対しても堅調に成長。
- ✓ **粗利益率**：**51.0%**（前年同期比：+1.5ppt）
 - ・仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化などが奏功。
- ✓ **営業利益**：**336億円**（前年同期比：+75.4%）、**営業利益率**：**11.6%**（前年同期比：+3.1ppt）
 - ・第2四半期累計期間で**過去最高**。
 - ・販管費の厳格なコントロールに加え、増収効果もあり、販管費率が低下し営業利益率は大幅改善。
- ✓ **四半期純利益**：**247億円**（前年同期比：+82.8%）
 - ・第2四半期累計期間で**過去最高**。

◆カテゴリー業績

- ✓ **パフォーマンスランニング**：売上高 **前年同期比+19.9%**
 - ・主要地域におけるGEL-NIMBUS 25のプロモーション強化が成功。
- ✓ **コアパフォーマンススポーツ**：売上高 **前年同期比+71.9%**
 - ・アシックス独自の商品訴求を展開しているテニスなどが牽引。
 - ・増収効果によりカテゴリー利益は前年同期比で2倍超。
- ✓ **オニツカタイガー**：売上高 **前年同期比+44.1%**
 - ・インバウンド需要の堅調な回復を取り込んだ日本が全体の増収に寄与。
 - ・販売価格コントロールの効果もあり、カテゴリー利益は前年同期比で2倍超。

2023年12月期 第2四半期累計期間 連結決算ポイント②

◆地域業績

- ✓ アシックスジャパン：売上高 前年同期比+41.8%
 - ・インバウンド需要の取り込みに加え、商品供給を正常化したコアパフォーマンススポーツが躍進.
 - ・主に増収効果により営業利益は大幅増益.
- ✓ 中華圏：売上高 前年同期比+39.6%
 - ・従来からのローカル性を重視した商品戦略もありリオープン需要に柔軟に対応.
 - ・オニツカタイガーの売上高は2月以降、前年を上回って推移.
- ✓ 東南・南アジア：売上高 前年同期比+66.9%
 - ・最も伸長した地域. 特に、インド、マレーシアが大きく増収.

◆デジタル関連

- ✓ OneASICS会員：830万人（前年同期比+33.9%）、EC売上高：496億円（前年同期比+36.3%）
 - ・ランニングエコシステム拡充に向け、ランナーとの直接的な接点獲得が進捗.

◆上方修正及び増配

- ✓ 第2四半期累計期間の好調な業績の進捗を踏まえ、通期業績予想を上方修正. 売上高及び段階利益は過去最高を更新見込み.
 - ・売上高：5,500億円、営業利益：460億円、当期純利益：250億円の見込み.
- ✓ 営業キャッシュフローが過去最高となったこともあり、中間配当25.0円、期末配当30.0円（年間55.0円）にそれぞれ増配.

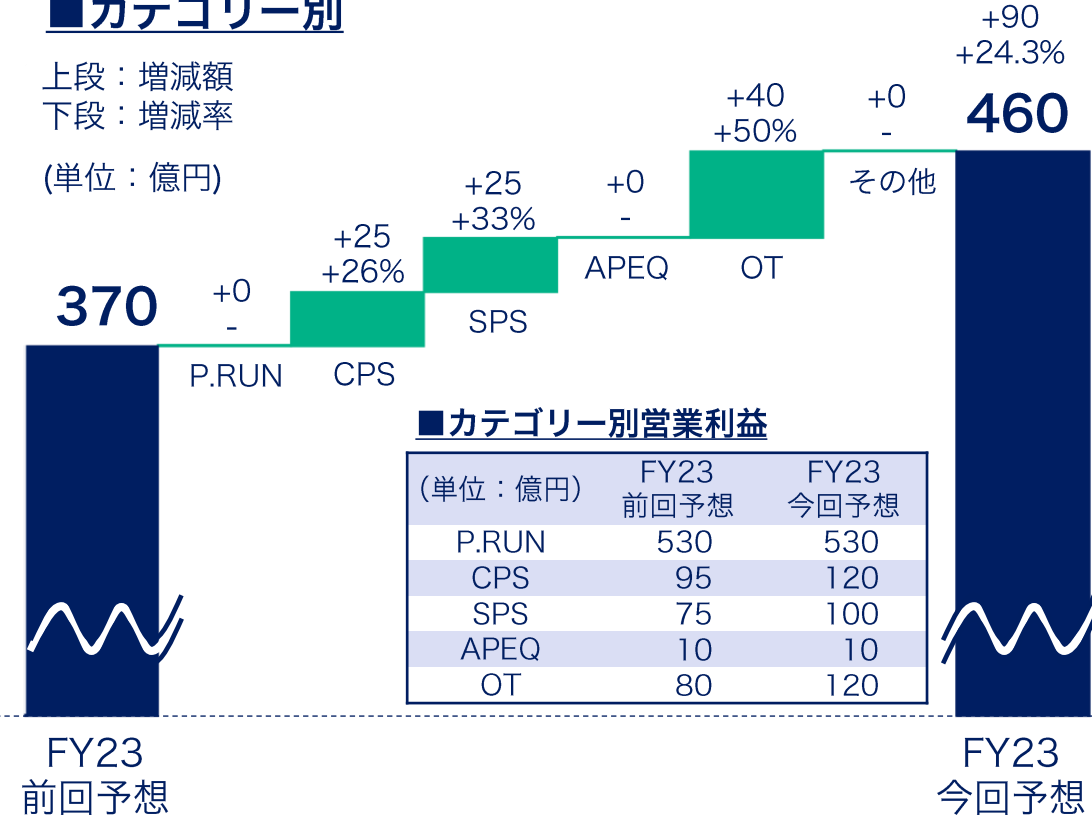
通期業績予想の上方修正及び増配

- ✓ 第2四半期累計期間の好調な実績を踏まえつつ、為替レートを実勢に応じて見直した結果、年間売上高は5,500億円、営業利益は460億円、当期純利益は250億円となり、いずれも過去最高となる見込み。
- ✓ カテゴリーではCPS、SPS及びOTが、地域別では日本、中華圏及び東南・南アジアが引き続き牽引する見通し。
- ✓ これを踏まえ、また第2四半期累計期間の営業キャッシュフローが過去最高となったこともあり、配当は年間55.0円を計画。

■カテゴリー別

上段：増減額
下段：増減率

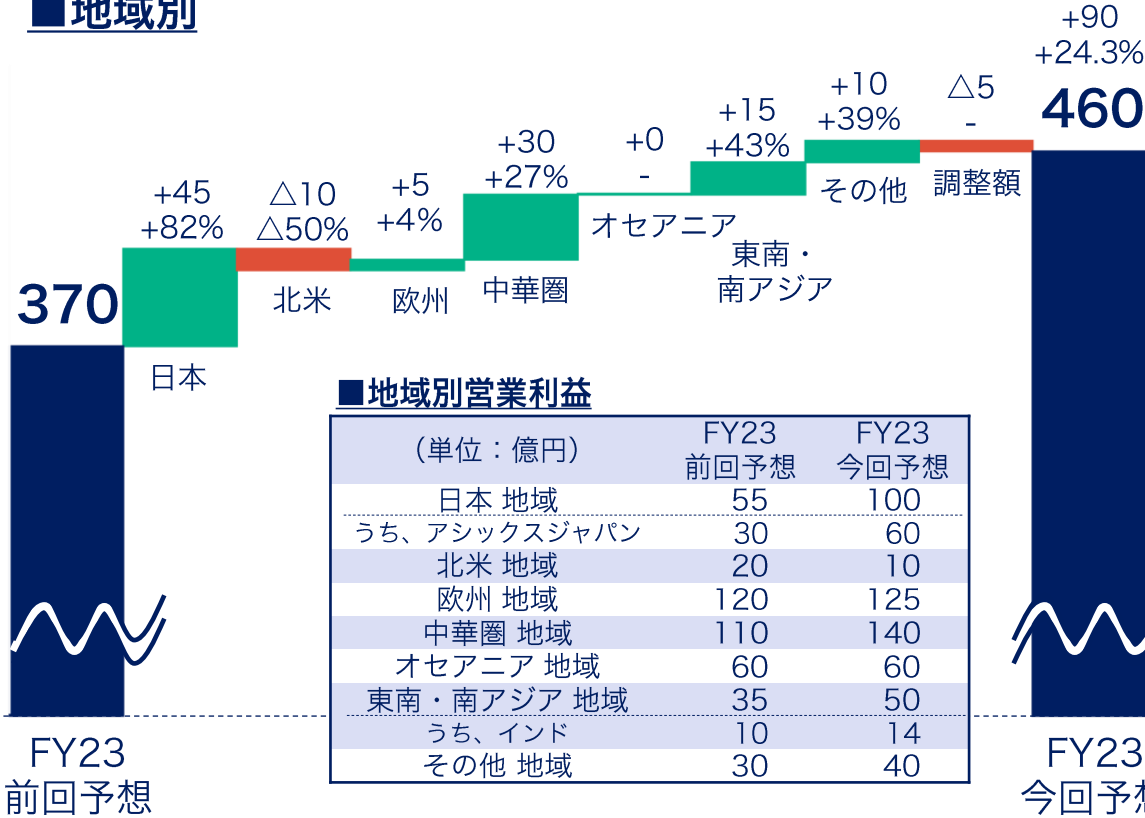
(単位：億円)



■カテゴリー別営業利益

(単位：億円)	FY23 前回予想	FY23 今回予想
P.RUN	530	530
CPS	95	120
SPS	75	100
APEQ	10	10
OT	80	120

■地域別



■地域別営業利益

(単位：億円)	FY23 前回予想	FY23 今回予想
日本 地域	55	100
うち、アシックスジャパン	30	60
北米 地域	20	10
欧州 地域	120	125
中華圏 地域	110	140
オセアニア 地域	60	60
東南・南アジア 地域	35	50
うち、インド	10	14
その他 地域	30	40

為替レート	USD	EUR	RMB
前回予想	125.00円	132.00円	19.00円
今回予想	135.00円	145.00円	19.50円

P.RUNフルラインナップ

- ✓ GEL-NIMBUS25に続き、安定性と快適性を両立させた最新モデルGEL-KAYANO30を7月に発売。高い商品評価を獲得。
- ✓ 世界陸上や駅伝シーズンに向けたSPEEDモデルの訴求を実施、各種大会でのシェア向上を図る。

PROTECTION

CUSHION

BOUNCE

SPEED

TRAIL

High

Price

Low



GEL-KAYANO 30



GEL-NIMBUS 25



SUPERBLAST



METASPEED SKY+



TRABUCO MAX 2



GT-2000 11



GEL-CUMULUS 25



NOVABLAST 3



S4



TRABUCO 11



GT-1000 12



GEL-PULSE 14



DYNABLAST 3



MAGIC SPEED 3



SONOMA 7

ランニングエコシステム拡大に向けた取り組み

- ✓ OneASICS会員基盤の拡大をECを含むランニングエコシステムへのランナー誘導の起点の一つと位置づけ。
- ✓ 日本ではアールビーズとの協働によるサービスの多様化などを通じてエコシステムを構成するメニューの充実を企図。
- ✓ ランナーとの接点の極大化に向けたミッシングピースの特定とエコシステムへの取り込みに向けた外部パートナーとの連携及び投資の戦略を、次期中期経営計画に向けて策定中。

■OneASICS会員数とEC売上高の推移

	FY21Q2	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比
OneASICS会員数	448万人	620万人	830万人	+33.9%
EC売上高	317億円	363億円	496億円	+36.3%

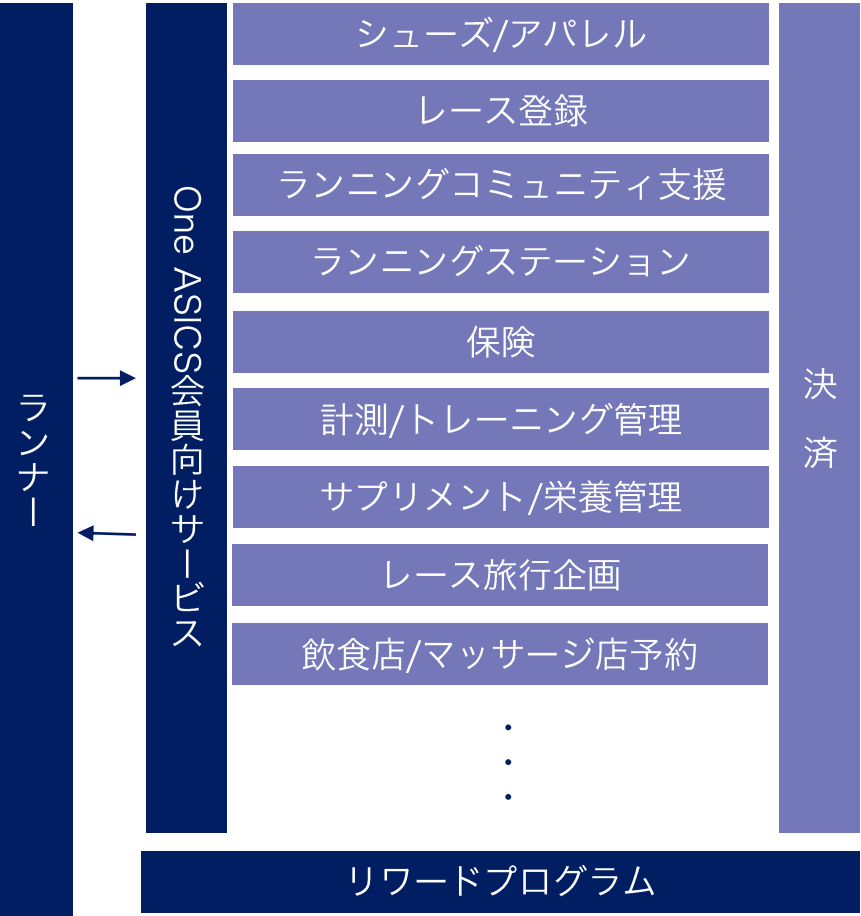
■アールビーズとの協働事例



アールビーズが企画運営する「ランナーズ全日本30Kシリーズ」に協賛。7月22日開催の札幌30Kにて、フォーム分析デジタルサービス「ASICS RACE REPORT」を参加者全員に無料提供。タイムだけではなく、ランニングフォーム、ペース配分の分析、アドバイスなどの新たなレース体験を提供。



■ランニングエコシステムのイメージ



1. 2023年12月期 第2四半期連結業績

- ✓ 2023年12月期 第2四半期概要
- ✓ 連結決算ハイライト
- ✓ 販管費の状況

2023年12月期 第2四半期 概要

売上高 **2,900億円** (前年同期 2,250億円) 前年同期比 : +650億円 +28.9%
為替影響除く : +488億円 +21.7%

- ◆ 過去最高. 前年同期比で+28.9%、為替影響を除いても+21.7%の成長.
- ✓ インバウンド需要の取り込みに加え、CPSが躍進したアシックスジャパンで+41.8%、ローカル性を重視した商品戦略もありリオオープン需要に対応した中華圏で+39.6%、インド、マレーシアなどが大きく増収した東南・南アジアで+66.9%.

営業利益 **336億円** (前年同期 191億円) 前年同期比 : +145億円 +75.4%
為替影響除く : +130億円 +68.0%

- ◆ 過去最高. 前年同期比70%超の増益.
- ✓ 粗利益率は51.0%. 仕入為替の悪化があったものの、販売価格適正化などが奏功し、前年同期から1.5ppt改善.
- ✓ 営業利益率は前年同期の8.5%から11.6%へ (+3.1ppt) .

四半期純利益 **247億円** (前年同期 135億円) 前年同期比 : +112億円 +82.8%
為替影響除く : +103億円 +76.6%

- ◆ 過去最高. 前年同期比80%超の増益.

連結決算ハイライト

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY22Q2 実績	FY23Q2 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	2,250	2,900	+650 +28.9%
売上総利益	1,114	1,479	+365 +32.7%
売上総利益率	49.5%	51.0%	+1.5ppt
販管費	923	1,143	+220 +23.9%
販管費率	41.0%	39.4%	△1.6ppt
人件費	315	364	+49 +15.5%
広告宣伝費	136	192	+56 +40.9%
広告宣伝費率	6.1%	6.6%	+0.5ppt
賃借料	59	62	+3 +5.2%
減価償却費	72	85	+13 +16.8%
その他経費	341	440	+99 +29.0%
営業利益	191	336	+145 +75.4%
営業利益率	8.5%	11.6%	+3.1ppt
経常利益	189	338	+149 +78.2%
特別損益	△4	△4	+0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	135	247	+112 +82.8%

	FY22Q2 実績	FY23Q2 実績	増減額	増減率
海外売上高	1,848	2,330	+482	+26.1%
海外比率	82.1%	80.4%	-	△1.7ppt
為替影響除く	連結売上高増減		+488	+21.7%
	連結営業利益増減		+130	+68.0%
	連結純利益増減		+103	+76.6%
平均為替レート (円)	FY22Q2 実績	FY23Q2 実績		
1ドル	123.29	135.98		
1ユーロ	134.80	147.19		
1人民元	19.00	19.54		

連結決算ハイライト（3ヶ月期間）

（単位：億円）

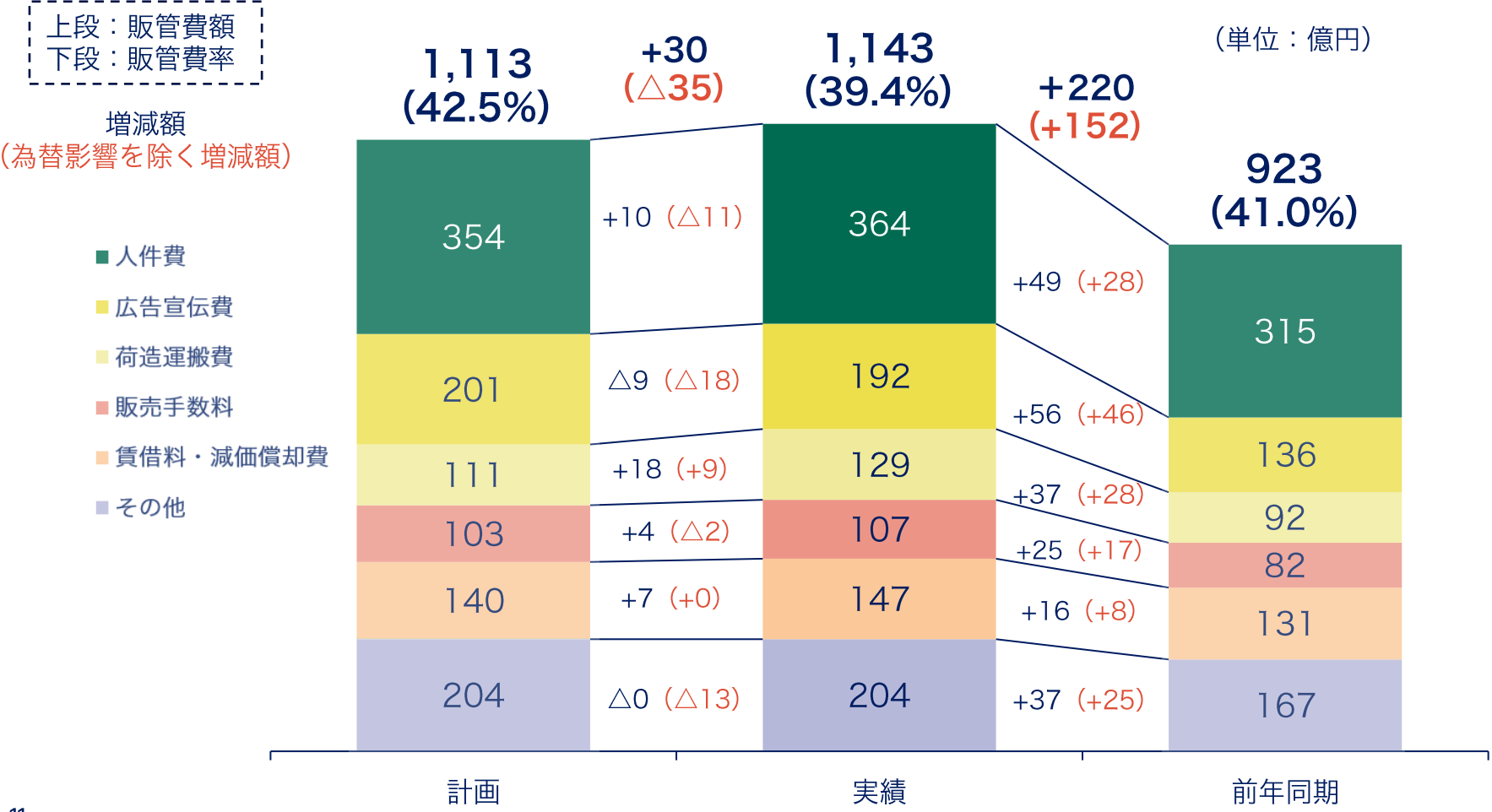
3ヶ月期間 (4-6月)	FY22Q2 実績	FY23Q2 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	1,197	1,378	+181 +15.1%
売上総利益	588	715	+127 +21.5%
売上総利益率	49.2%	51.9%	+2.7ppt
販管費	497	600	+103 +20.7%
販管費率	41.6%	43.6%	+2.0ppt
人件費	164	189	+25 +15.4%
広告宣伝費	81	105	+24 +29.8%
広告宣伝費率	6.8%	7.6%	+0.8ppt
賃借料	31	32	+1 +6.0%
減価償却費	37	44	+7 +18.4%
その他経費	184	230	+46 +25.0%
営業利益	91	115	+24 +26.1%
営業利益率	7.6%	8.3%	+0.7ppt
経常利益	79	119	+40 +49.1%
特別損益	△4	△1	+3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	48	84	+36 +75.4%

	FY22Q2 実績	FY23Q2 実績	増減額	増減率
海外売上高	984	1,109	+125	+12.7%
海外比率	82.2%	80.5%	-	△1.7ppt
為替影響除く	連結売上高増減		+119	+9.9%
	連結営業利益増減		+21	+23.1%
	連結純利益増減		+34	+70.8%
四半期推移	Q1	Q2	Q3	Q4
売上高	1,522	1,378		
営業利益	221	115		
営業利益率	14.5%	8.3%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	163	84		

- ✓ 売上高は、工場稼働停止による供給制約からの反動増があった前年に対しても好調を維持。7月も前年同月比+34%となり、好調が続く。
- ✓ 売上総利益は、前年比+2.7pptの51.9%。チャネル戦略などが奏功し、利益を伴う成長を続ける。リテールとECの売上高構成は計4割超。
- ✓ マーケティング投資の強化や各コストが上昇する中でも、全ての段階利益で増益。

販管費の状況（第2四半期累計期間）

- ✓ 計画比は、30億円増加も為替影響(+65億円)を除くと35億円減少。 主要因は広告宣伝費の発生時期変更に伴う減少及び採用計画の見直しによる人件費減少。
- ✓ 前年同期比は、 220億円増加も為替影響(+68億円)を除くと152億円増加。 主要因はインフレに伴う人件費、商品発売時期の違いによる広告宣伝費、ECの売上高増加に連動した販売手数料や荷造運搬費の増加。
- ✓ 販管費率は39.4%。 大幅増収により計画・前年同期から大幅に低下。



<参考：平均為替レート（円）>

第2四半期 (1-6月)	FY23Q2 計画	FY23Q2 実績	FY22Q2 実績
1ドル	125.00	135.98	123.29
1ユーロ	132.00	147.19	134.80
1人民元	19.00	19.54	19.00

2. 2023年12月期 第2四半期 連結経営成績（カテゴリー別）

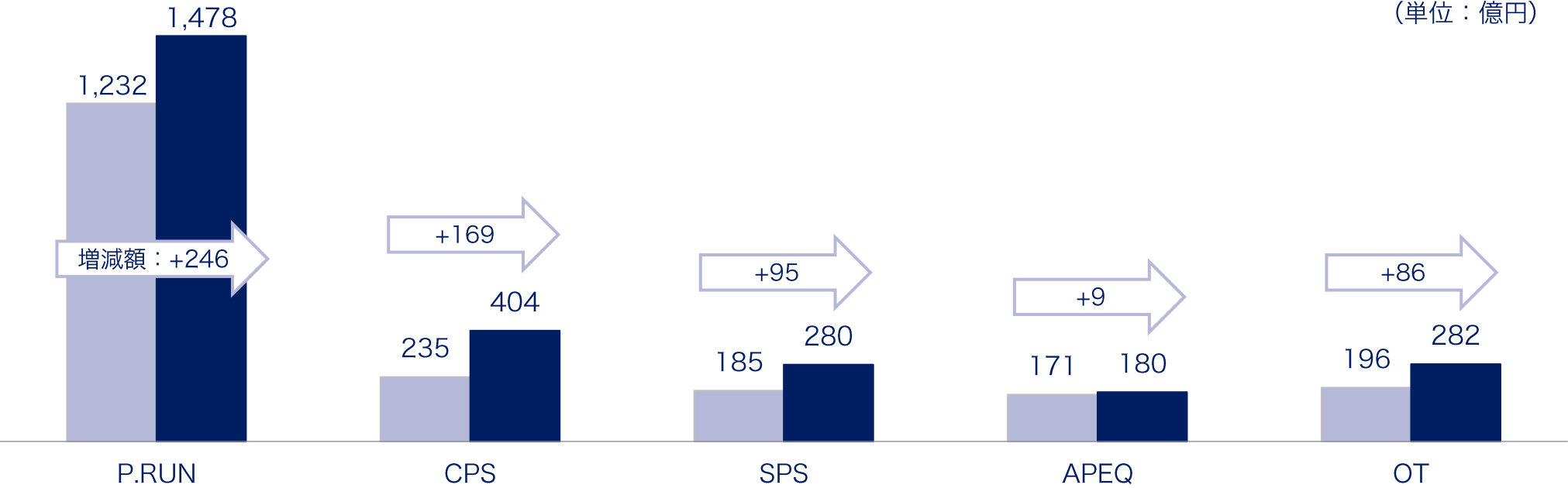
- ✓ カテゴリー別連結売上高
- ✓ カテゴリー別地域別売上高構成
- ✓ カテゴリー別業績

カテゴリー別連結売上高

- ✓ P.RUNは全地域で増収、特に東南・南アジアでは+76%と大幅増収、その内のマレーシアでは倍増、インドでは+57%.
- ✓ CPSは最も成長したカテゴリー、特に北米、欧州でのテニス、日本のワーキングが大きく伸長.
- ✓ OTは2月以降、前年を上回って推移.

■ FY22Q2 ■ FY23Q2

(単位：億円)

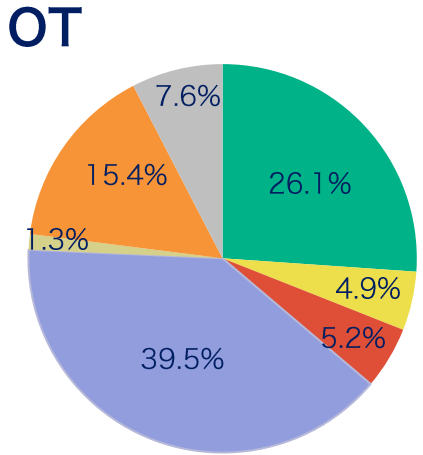
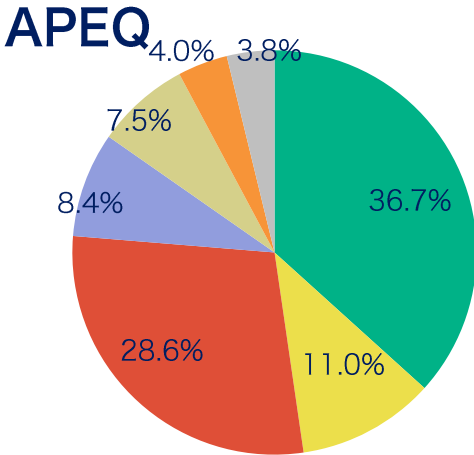
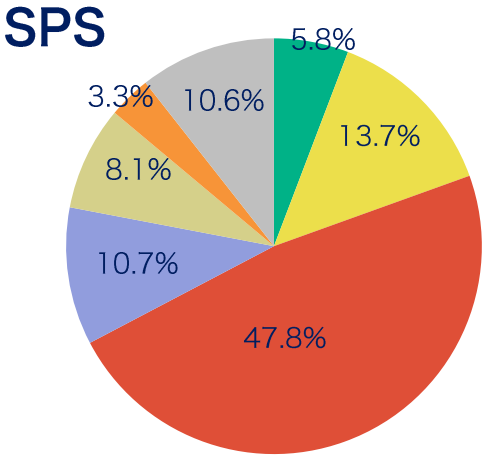
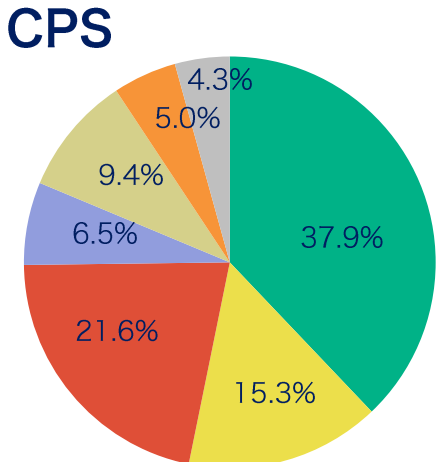
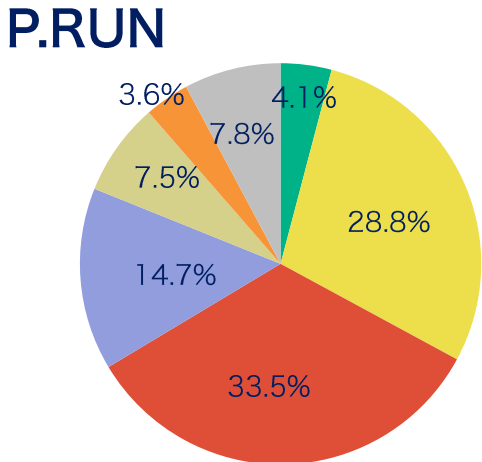
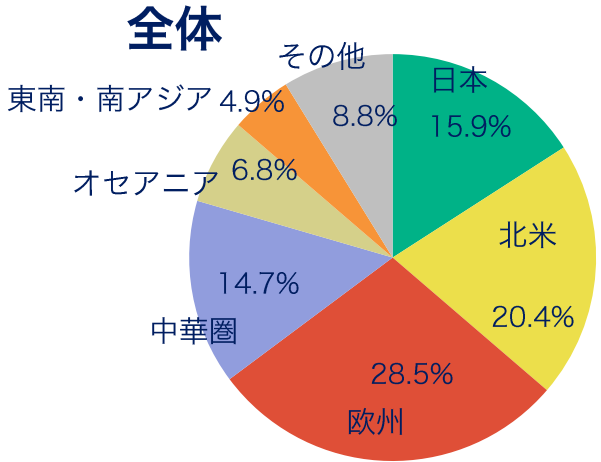


増減率	+19.9%	+71.9%	+51.5%	+5.3%	+44.1%
為替影響を除く	+11.4%	+64.3%	+41.3%	+0.5%	+38.6%

カテゴリー別地域別売上高構成

- ✓ 連結では日本、北米、欧州、中華圏に分散しており、バランスの良い地域ポートフォリオを形成。
- ✓ P.RUNは各地域でNo.1、OTはグローバルブランド確立を目指す。

■ 日本 ■ 北米 ■ 欧州 ■ 中華圏 ■ オセアニア ■ 東南・南アジア ■ その他



カテゴリー利益等一覧

- ✓ 全カテゴリーで増収増益.
- ✓ カテゴリー外コストは、為替影響（+10億円）や人件費の増加（+8億円）などにより前年同期比プラスとなるもコストオーナー制の下、売上高成長率の範囲内でコントロール.

(単位：億円)

	P.RUN	CPS	SPS	APEQ	OT	Others	TTL
売上高	1,478 (+246)	404 (+169)	280 (+95)	180 (+9)	282 (+86)	276 (+45)	2,900 (+650)
カテゴリー利益	292 (+33)	87 (+47)	54 (+23)	13 (+13)	78 (+42)		
カテゴリー外コスト							195 (+30)
連結営業利益							336 (+145)

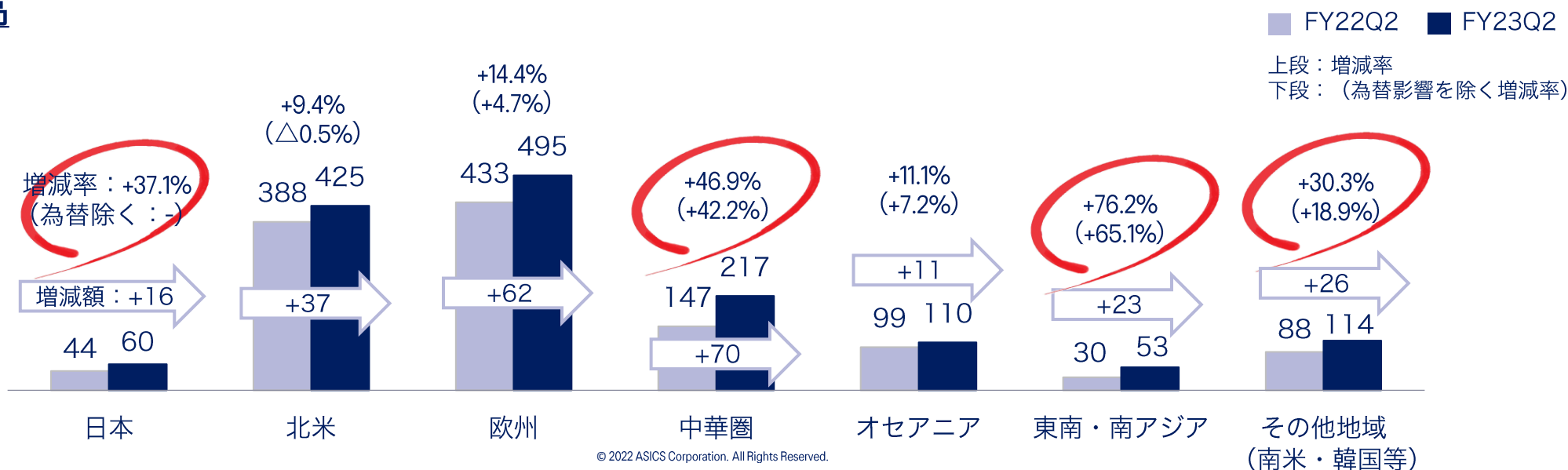
() 内は前年同期比

パフォーマンスランニング (P.RUN)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	増減率
売上高	1,232	1,478	+246	+19.9%
為替影響除く増減		1,372	+140	+11.4%
カテゴリー利益	259	292	+33	+12.6%
カテゴリー利益率	21.1%	19.8%	-	△1.3ppt
3ヶ月期間 (4-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	増減率
売上高	645	699	+54	+8.4%
為替影響除く増減		659	+14	+2.2%
カテゴリー利益	127	123	△4	△3.1%
カテゴリー利益率	19.7%	17.6%	-	△2.1ppt

■地域別売上高



GEL-KAYANO 30

途切れない安定感。最後まで続く信頼感。

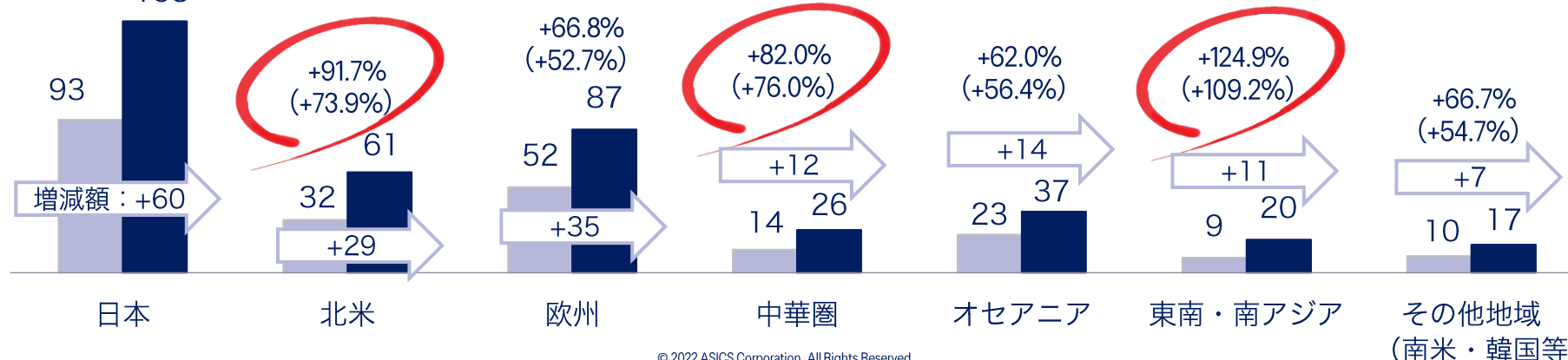
コアパフォーマンススポーツ (CPS)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	235	404	+169	+71.9%
為替影響除く増減		386	+151	+64.3%
カテゴリー利益	40	87	+47	+116.1%
カテゴリー利益率	17.1%	21.5%	-	+4.4ppt
3ヶ月期間 (4-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	133	177	+44	+33.1%
為替影響除く増減		171	+38	+28.6%
カテゴリー利益	25	30	+5	+20.0%
カテゴリー利益率	18.8%	16.9%	-	△1.8ppt

■地域別売上高

増減率：+64.3%
(為替除く：-)
153



GEL-RESOLUTION 9

ベースラインでのラリーを得意とするプレイヤーに向けた安定性に優れたフラッグシップモデル

ポイント

- ◆ 売上高は、全ての地域で前年同期比2桁増収、計画も超過。また北米、欧州ではテニスシューズが前年同期比、計画比共に好調に推移。
- ◆ 第2四半期3ヶ月期間の売上高についても前年比増収。
- ◆ 粗利益率は、仕入為替の悪化やホールセール売上構成比が高まった影響などにより44.0%（前年同期比△1.3ppt）。但し計画は上回る。
- ◆ カテゴリー利益は2倍超の増益。また全ての地域で前年同期比、計画比共に増益。
- ◆ プレーイングスタイル別のテニスシューズの商品訴求などを継続的に実施し更なる売上拡大を図る。

■ FY22Q2 ■ FY23Q2

上段：増減率
下段：（為替影響を除く増減率）

CPS : テニスシューズ

- ✓ プレーイングスタイル別のユニークな商品訴求を契約選手を通じて実施。米国、欧州、豪州で高いマーケットシェアを獲得。
- ✓ これを受けて、米国でのピックルボールや欧州でのパデル向けシューズの売上高成長にも波及。
- ✓ 今後、ランニングに続き、グローバルでNo.1を目指す。

BASELINE

特に横方向の動きが多いプレイヤー



マッテオ・ベレッティーニ

代表アイテム：GEL-RESOLUTION

“Stability”
パワフルなストローク
をサポートする安定性



(23年全仏カラー)

BEST of BOTH

縦横両方の動きを兼ね備えたプレイヤー



ノバク・ジョコビッチ

代表アイテム：COURT FF

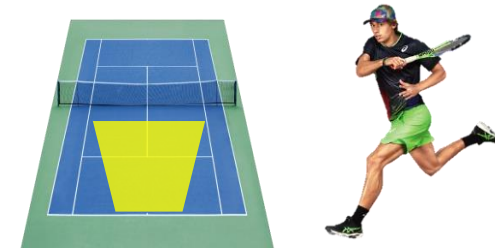
“Stability + Speed”
素早いダッシュと
切り返し動作を両立



(23年全仏カラー)

ALL-COURT

特にネットに詰める前後の動きが多いプレイヤー



アレックス・デミノー

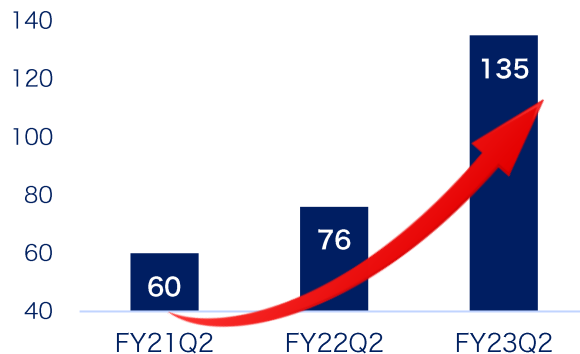
代表アイテム：SOLUTION SPEED FF

“Speed”
コート全面をカバー
する機動力をサポート



(23年全仏カラー)

■テニスシューズ連結売上高（億円）



ピックルボールとは？

バドミントンコートと同じ広さのコートで板状のパドルを使い、穴あきのボールを打ち合うスポーツ。米国で近年人気拡大。

パデルとは？

テニスとスカッシュを組み合わせたようなスポーツで、強化ガラスで囲まれたテニスコートの半分ほどのコートでプレー。欧州で人気の高いスポーツ。

スポーツスタイル (SPS)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	185	280	+95	+51.5%
為替影響除く増減		261	+76	+41.3%
カテゴリー利益	31	54	+23	+72.5%
カテゴリー利益率	17.0%	19.3%	-	+2.3ppt
3ヶ月期間 (4-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	104	126	+22	+21.2%
為替影響除く増減		119	+15	+14.4%
カテゴリー利益	18	17	△1	△5.6%
カテゴリー利益率	17.3%	13.5%	-	△3.8ppt



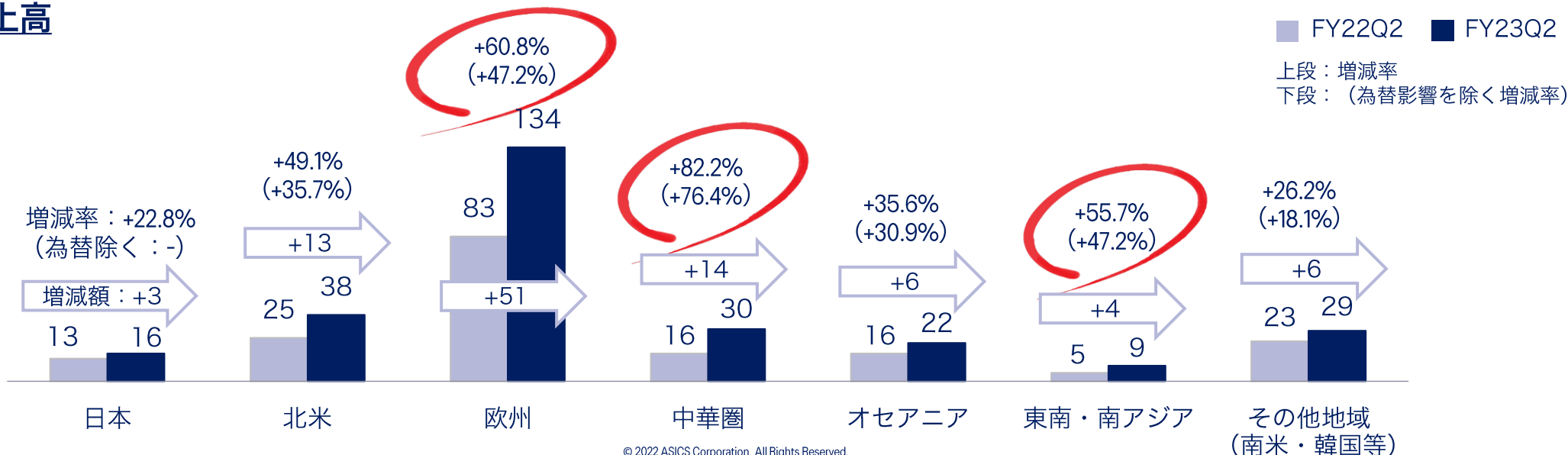
GT-2160

2010年発売のGT-2000シリーズに見られる美しく流れる
アッパーデザインを現代にアップデート

ポイント

- ◆ 売上高は、前年同期比で大幅増収、計画比も超過。
- ◆ 第2四半期3ヶ月期間の売上高は工場稼働停止による供給制約からの反動増があった前年に対しても増収。
- ◆ 粗利益率は48.5%（前年同期比△0.4ppt）、仕入為替の悪化に加えてホールセール売上高の構成比が高まったが微減に留まる。
- ◆ カテゴリー利益は、全ての地域で増益となり、計画比も超過。
- ◆ 9月に温室効果ガス排出量が最少のスニーカー「GEL-LYTE III CM 1.95」を発売予定。

■地域別売上高



(単位：億円)

■地域別売上高



季節の移り変わりに合わせて レイヤリングを楽しめるアイテム

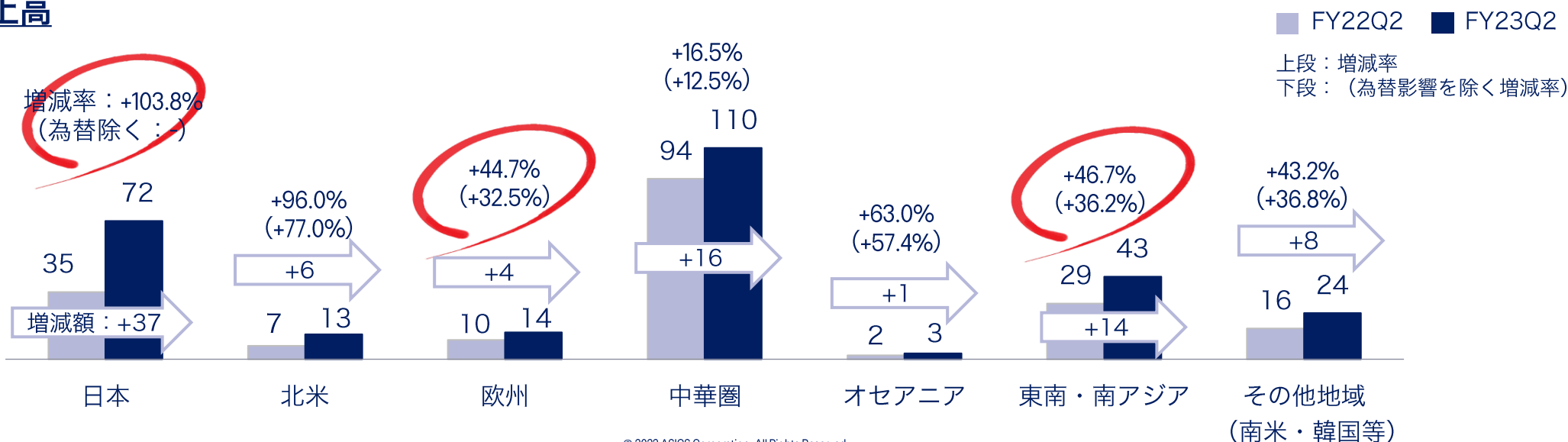
- ◆ 売上高は北米、その他地域を除き増収、計画比では欧州、中華圏の影響で超過。
- ◆ 粗利益率は全ての地域で改善し48.8%（前年同期比+4.4ppt）。
- ◆ カテゴリー利益は、増収、粗利益率改善に伴い全ての地域で増益。計画比でも増益。
- ◆ ランニング、トレーニングなど主要カテゴリーにおける高機能商品を展開し、自主管理売場での販売強化により、収益性改善を目指す。

オニツカタイガー (OT)

(単位：億円)

第2四半期 (1-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	196	282	+86	+44.1%
為替影響除く増減		271	+75	+38.6%
カテゴリー利益	36	78	+42	+116.0%
カテゴリー利益率	18.4%	27.7%	-	+9.3ppt
3ヶ月期間 (4-6月)	FY22Q2	FY23Q2	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	109	161	+52	+47.7%
為替影響除く増減		157	+48	+44.0%
カテゴリー利益	18	48	+30	+166.7%
カテゴリー利益率	16.5%	29.8%	-	+13.3ppt

■地域別売上高



ENDACTUS

Street Fighter 6 (CAPCOM) の発売を記念したコラボレーションシューズ

ポイント

- ◆ 売上高は、日本、東南・南アジア、韓国で大幅増収。中華圏も堅調に推移。全地域で計画も超過。
- ◆ 第2四半期3ヶ月期間の売上高は日本及び中華圏が好調に推移し、第1四半期3ヶ月期間を上回る伸長率。
- ◆ インバウンド売上高は28億円となり、FY19と同水準に回復。
- ◆ カテゴリー利益は、増収に加え、継続的な販売価格コントロールなどでの粗利益率が68.2%（前年同期比+5.1%）に向上し増益。計画比でも日本、中華圏、東南アジアが牽引し増益。
- ◆ コンセプトストアを銀座にオープン（8月）、ミラノファッションウィークに参加（9月）。

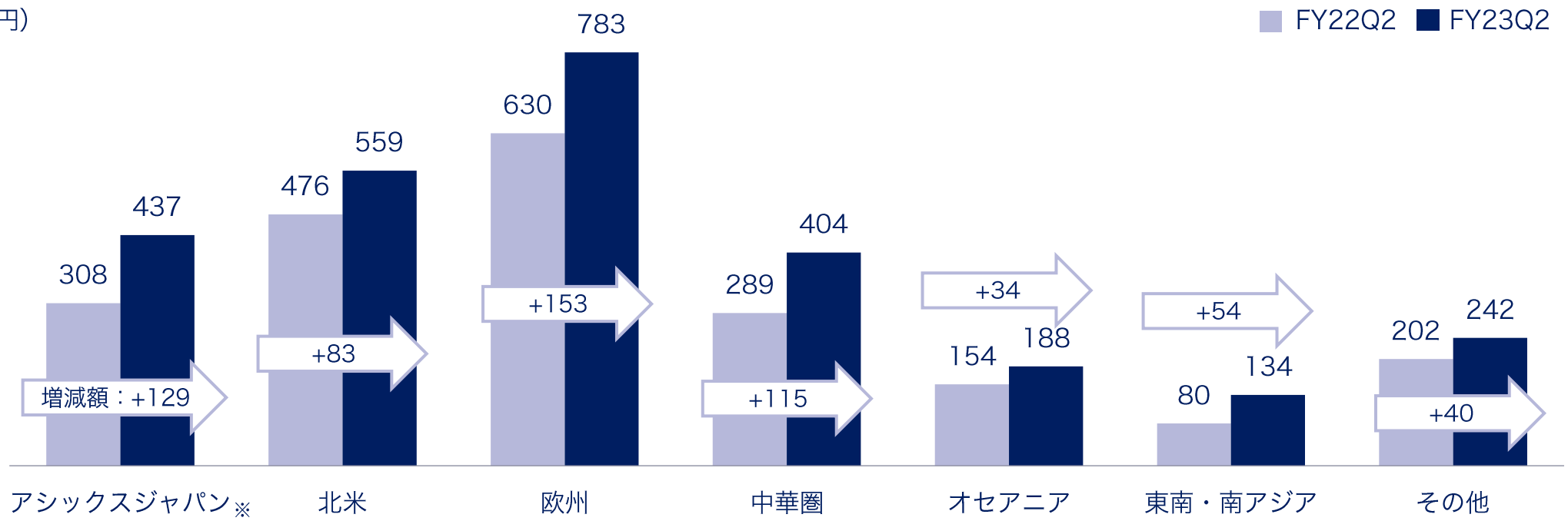
3. 2023年12月期 第2四半期 連結経営成績（地域別）

- ✓ 地域別売上高
- ✓ 主要地域別カテゴリー別売上高構成
- ✓ 連結営業利益内訳（地域別）
- ✓ チャンネル別売上高
- ✓ 月別・四半期別売上高

地域別売上高

- ✓ CPSやSPS、OTの躍進により、全地域で増収。
- ✓ アシックスジャパンではインバウンドが大幅増加となり、40%超の大幅増収。CPSが60%超、OTが前年同期比2倍の増収。
- ✓ 東南・南アジアは為替影響を除いても50%超の伸長。インドやマレーシアなどで高成長。

(単位：億円)

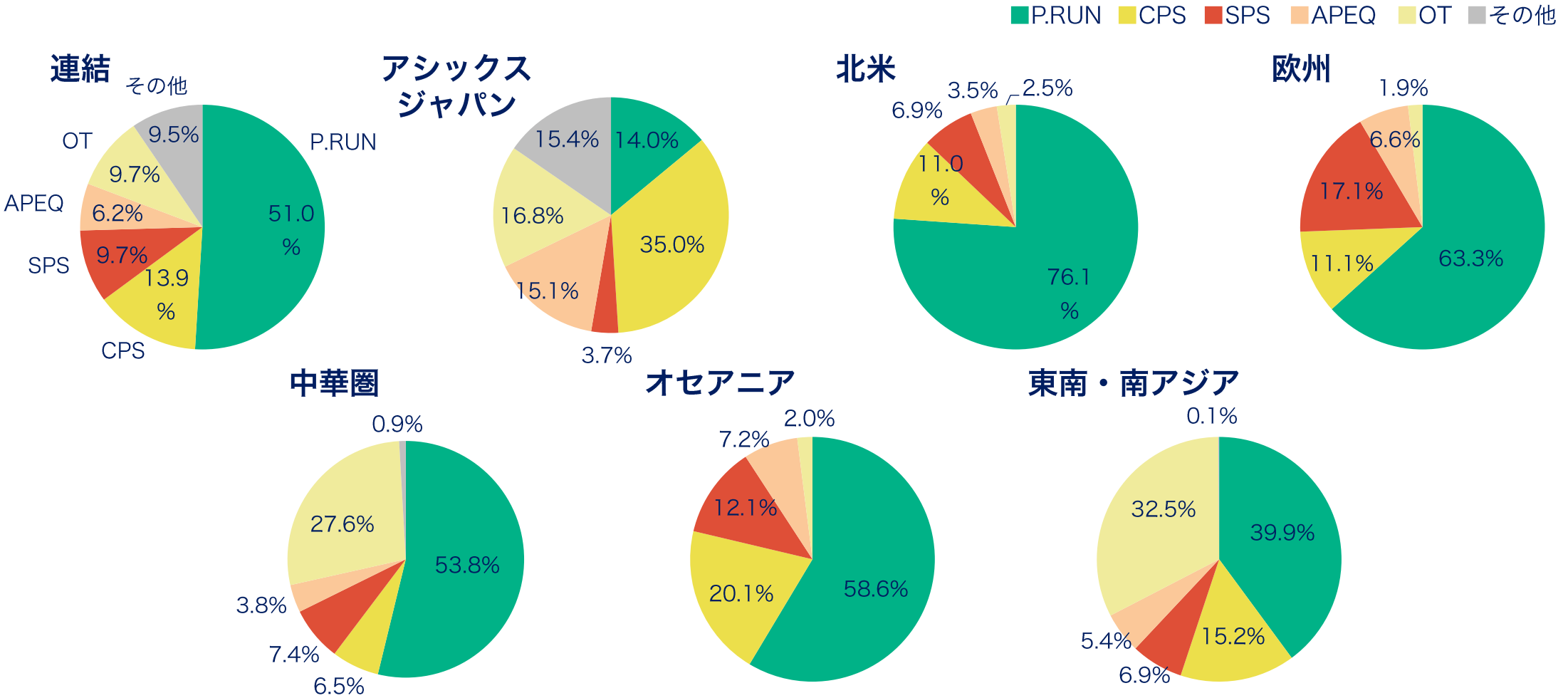


増減率	+41.8%	+17.4%	+24.4%	+39.6%	+22.3%	+66.9%	+19.3%
為替影響を除く	-	+6.7%	+13.8%	+35.0%	+18.0%	+55.9%	+11.9%

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社の売上も含まれております。よって、この決算補足説明資料においては、他の地域との比較可能性を考え、2022年12月期 第2四半期よりアシックスジャパンとしております。なお、日本地域における売上は、前期 565億円、当期 691億円です。

主要地域別カテゴリー別売上高構成

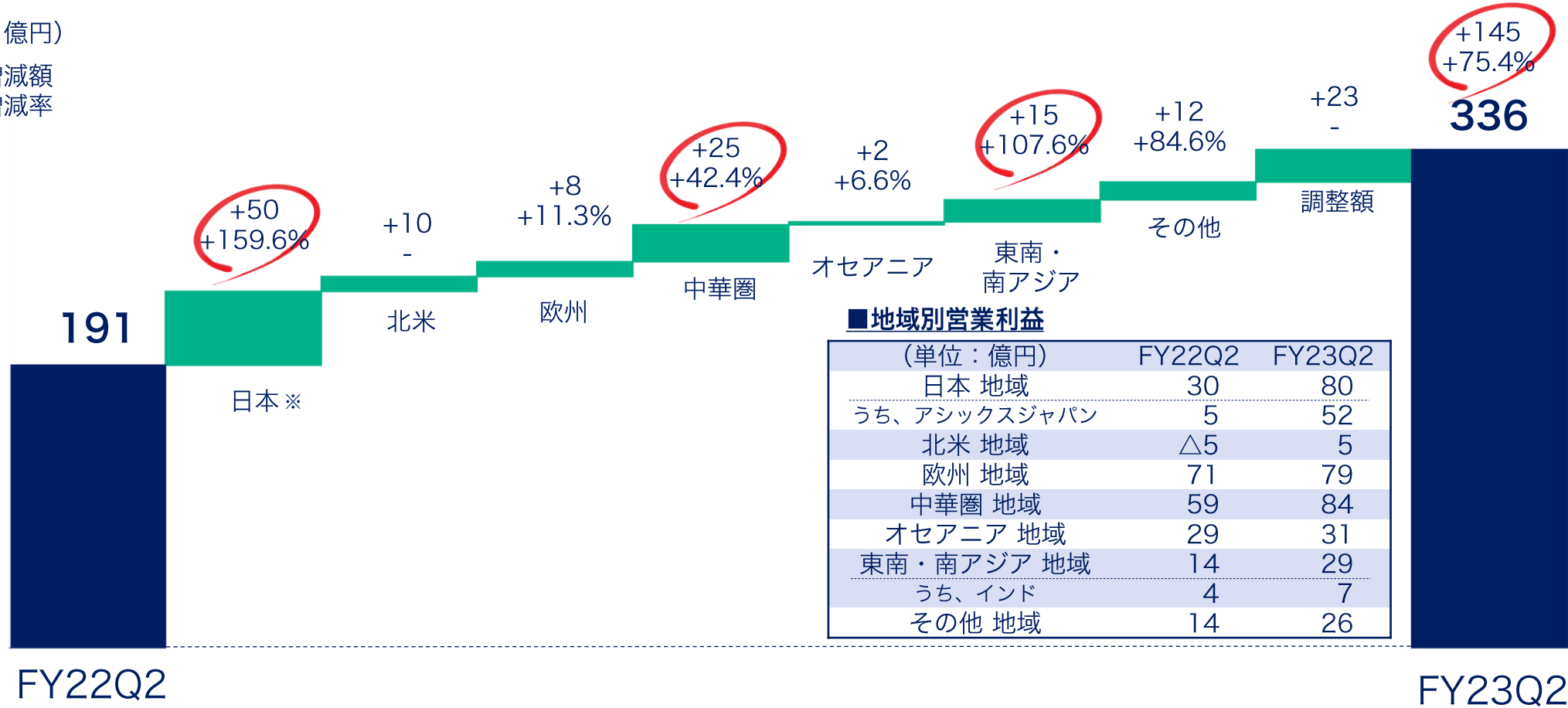
- ✓ P.RUNが連結売上高の50%強を占める。特に、北米、欧州、中華圏、オセアニアでは過半数を占め、他カテゴリーへの波及効果を狙う。アシックスジャパンではP.RUNの更なる拡大に注力。
- ✓ OTは中華圏や東南・南アジアでは約30%を占めるものの、連結では約10%。プレミアムブランドとして、特に欧州などで拡大を図る。



連結営業利益内訳（地域別）

- ✓ 営業利益は前年同期比70%超の増益となり過去最高。営業利益率は前年同期比+3.1pptとなる11.6%に良化。
- ✓ 日本地域に含まれるアシックスジャパンでは、大幅増収となったことにより、5億円から52億円へ増益。
- ✓ 成長市場として位置付ける東南・南アジアは2倍超の増益。シンガポール（+5億円）やマレーシア（+4億円）、インド（+3億円）が牽引。

（単位：億円）
 上段：増減額
 下段：増減率

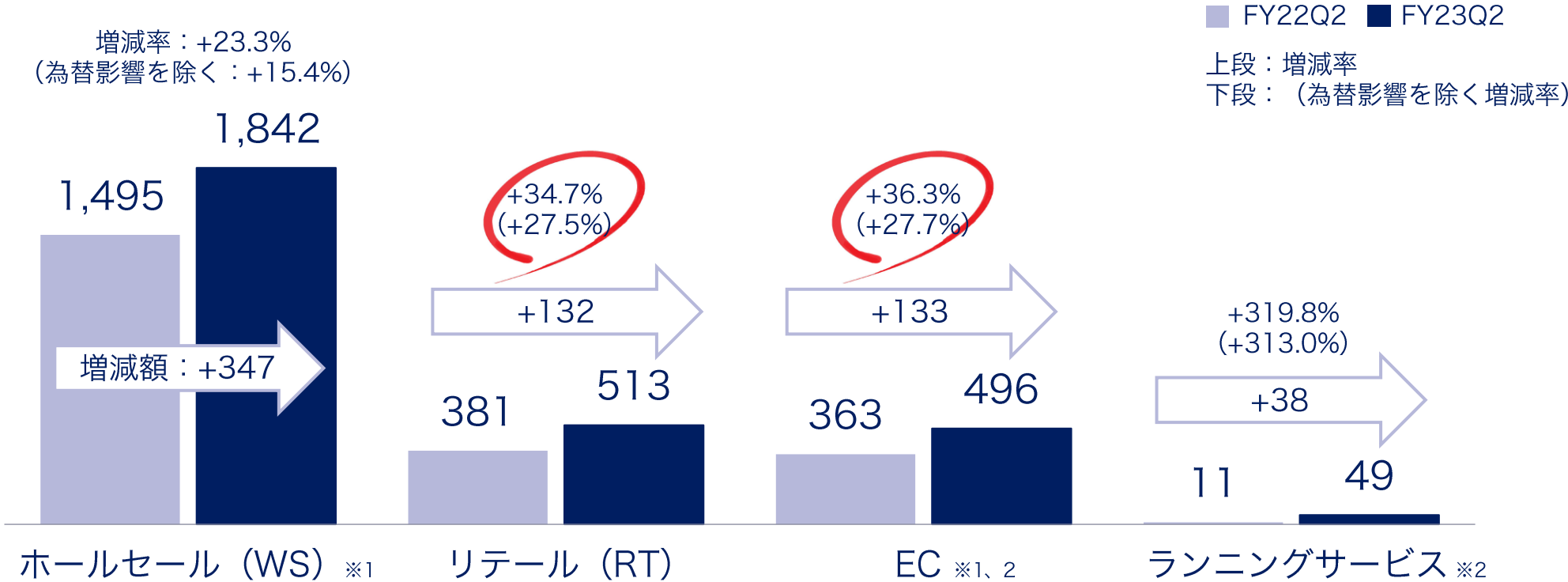


※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

チャネル別売上高

- ✓ リテールは北米で不採算店舗の見直しを進めつつも、日本や中華圏などでの増収により+34.7%。
- ✓ ECは前年同期比+36.3%となり、特に、北米（+50.6%）や欧州（+45.4%）で大幅に伸長。

(単位：億円)



チャネル別
売上高構成

66.4%	▶	63.5%	16.9%	▶	17.7%	16.2%	▶	17.1%	0.5%	▶	1.7%
-------	---	-------	-------	---	-------	-------	---	-------	------	---	------

※1 自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含んでおります。
 ※2 2023年より従前ECに含んでいたランニングサービスを新チャネルとして開示。ランニングサービスは、レースロースターやアールビーズが担うレース登録や運営などのサービス事業を含んでおり、ランニングエコシステムの拡充に繋がる同サービスを強化することで更なる収益性向上を図る。

連結売上高（月別・四半期別）

■ FY23 ■ 売上速報
■ FY22 前年同月比%（為替影響を除く増減率）

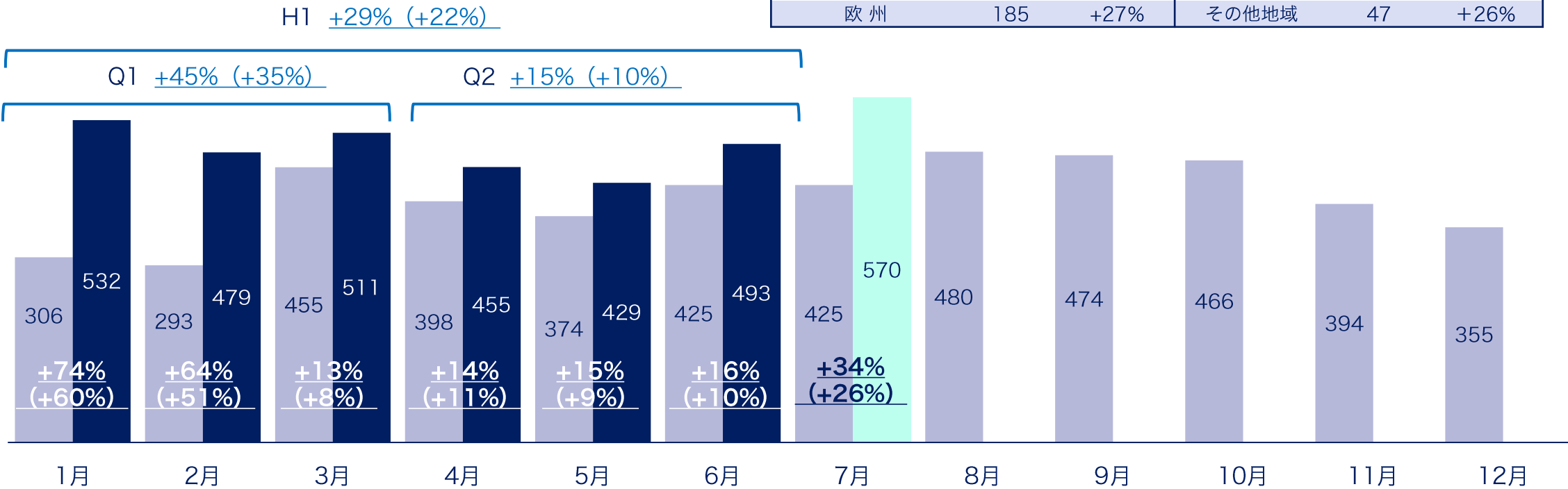


- ✓ 7月単月売上は570億円、欧州や中華圏などが好調に推移し前年同月比+34%。為替影響を除いても+26%と引き続き強いモメンタムが続く。
- ✓ 全カテゴリーで前年同月比増収。GEL-KAYANO30が好調に推移するP.RUNをはじめ、CPS、SPS、OTでも大幅増収。

（単位：億円）

■7月度主要地域売上

	売上高	為替影響除く増減率		売上高	為替影響除く増減率
連結	570	+26%	中華圏	77	+25%
アシックスジャパン	68	+47%	オセアニア	38	+46%
北米	109	+25%	東南・南アジア	25	+28%
欧州	185	+27%	その他地域	47	+26%



※ 2023年7月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。
また、新型コロナウイルス感染や生産遅延による影響も沈静化しておりますので、連結全体のみの開示とさせていただきます。

4. 2023年12月期 第2四半期 連結財政状態

- ✓ 連結貸借対照表
- ✓ 連結CF（キャッシュフロー）
- ✓ 連結棚卸資産残高
- ✓ ROAツリー分解

連結貸借対照表

- ✓ 好調な売上や為替影響による売掛金の増加などで運転資本は増加したものの、純資産の積み上げの範囲内。
- ✓ 短期借入金の返済も進み、自己資本比率は前期末比で5.5ppt改善の45.6%。

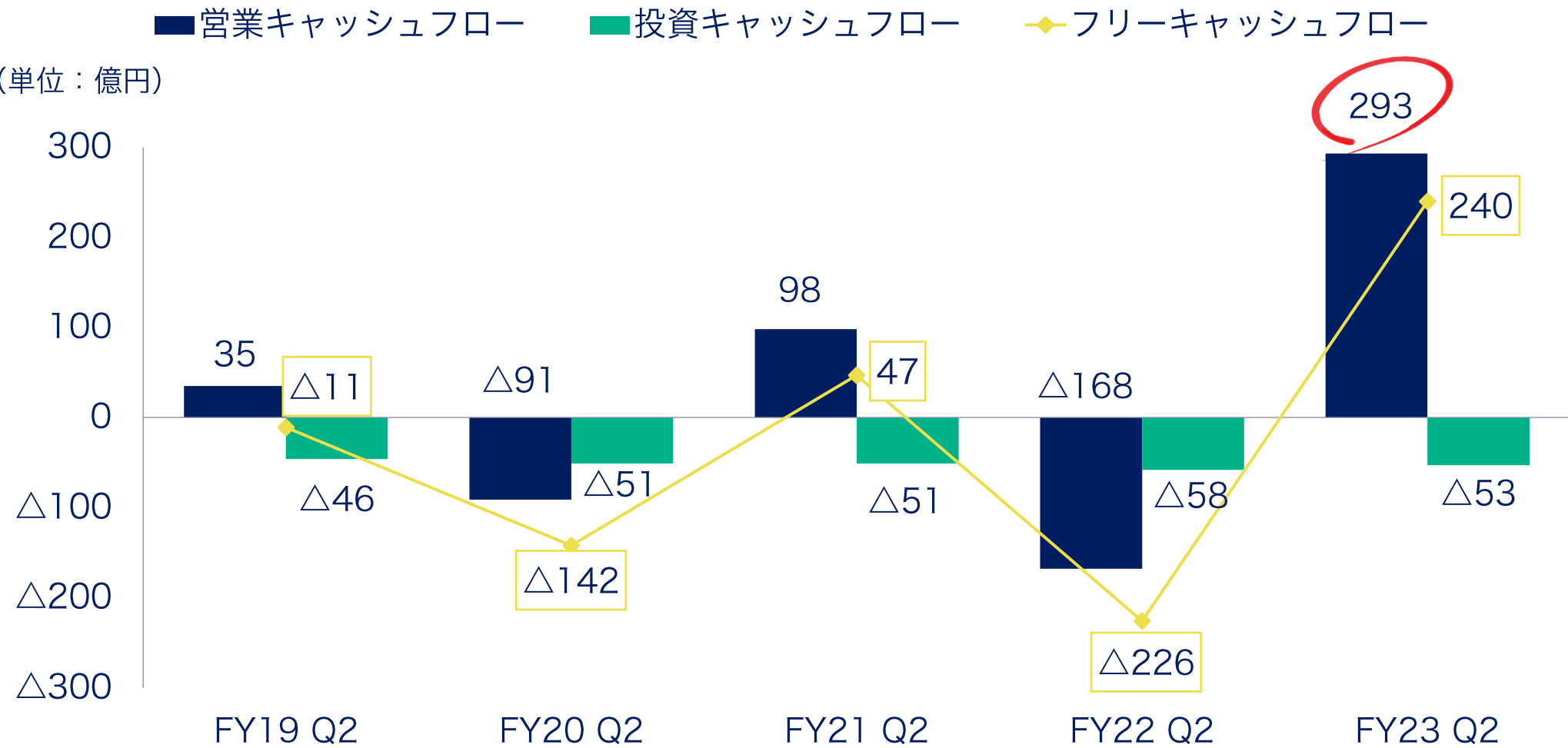
(単位：億円)



自己資本比率：45.6%
(前期末：40.1%)

連結CF（キャッシュフロー）

- ✓ 好調な業績や為替影響を除く在庫の減少もあり、過去最高の営業キャッシュフローを創出。
- ✓ 在庫水準適正化などに注力し、成長に向けた投資の原資を捻出していく方針。



連結棚卸資産残高

- ✓ 当第2四半期末の棚卸資産残高は、為替影響（+107億円）による押し上げを除くと、前期末から実質減少。
- ✓ これを受け、棚卸資産回転日数は前期末から22日改善。

■連結

(単位：億円)	FY22Q2	FY22Q4	FY23Q2	前年同期比	前期末比
連結	1,131	1,355	1,408	+277	+53 (内、為替影響+107)
内、洋上在庫	266	234	194	△72	△40

■カテゴリー別※

(単位：億円)	FY22Q2	FY22Q4	FY23Q2	前年同期比	前期末比
P.RUN	437	619	658	+221	+39
CPS	62	118	128	+66	+10
SPS	77	96	109	+32	+13
APEQ	123	111	117	△6	+6
OT	136	123	131	△5	+8

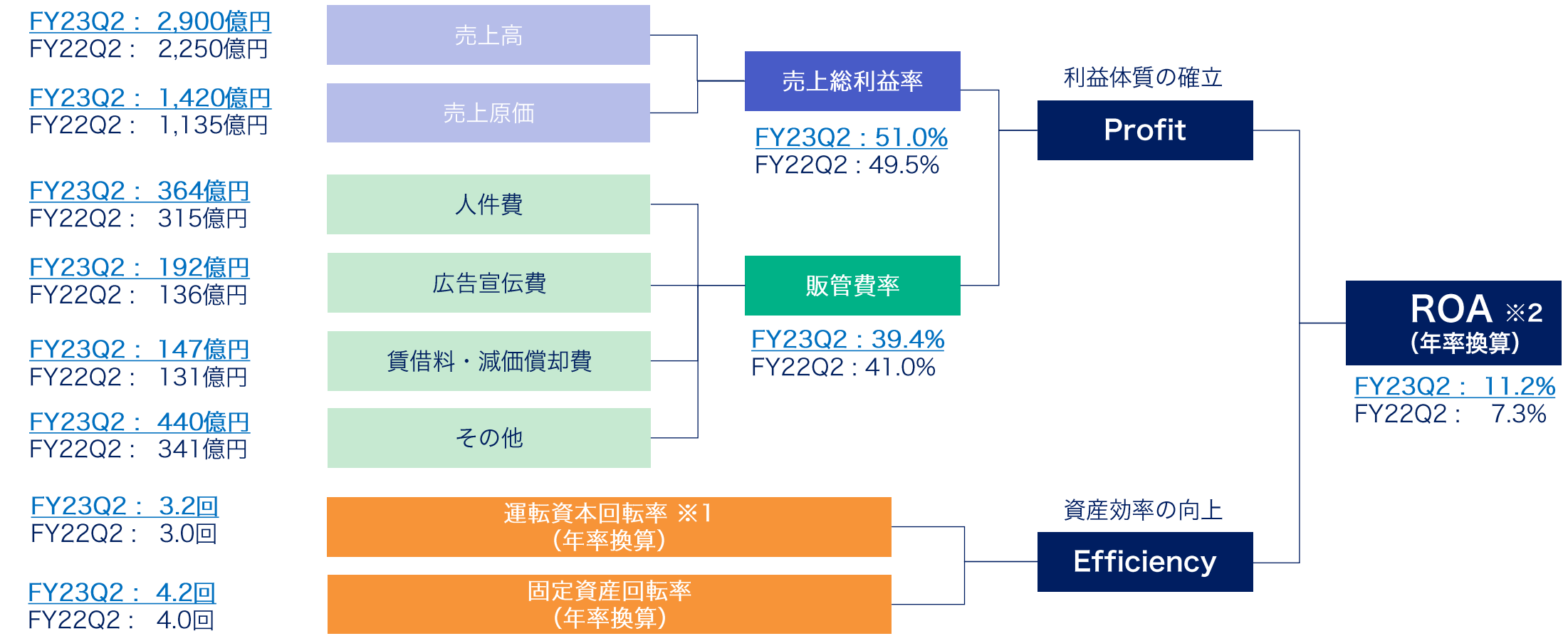
■主要地域別

(単位：現地通貨)	FY22Q2	FY22Q4	FY23Q2	前年同期比	前期末比
アシックスジャパン（億円）	128	154	167	+39	+13
米国（M USD）	237	220	194	△43	△26
欧州（M EUR）	171	270	256	+85	△14
中国（M RMB）	732	857	674	△58	△183

※ カテゴリー別棚卸資産残高には洋上在庫を含めておりません。

ROAツリー分解

- ✓ 商品構成の見直しや販売価格適正化による売上総利益率の改善に加え、コストオーナー制を通して販管費増を増収比率の範囲内に抑制.
- ✓ 運転資本改善活動である「キャッシュフローコミッティ」などを通じた、棚卸資産最適化に向けた取組み強化が奏功.



※1 社内目標として運転資本を設定しているため流動資産回転率ではなく運転資本回転率を記載しております。

※2 ROA =
$$\frac{2023\text{年}12\text{月期第}2\text{四半期純利益}}{(2022\text{年}12\text{月期期末総資産} + 2023\text{年}12\text{月期第}2\text{四半期末総資産}) \div 2} \times 2$$

5. 2023年12月期 連結業績予想

2023年12月期 連結業績予想

- ✓ 第2四半期累計期間の好調な実績を踏まえつつ、為替レートを実勢に応じて見直した結果、売上高および各段階利益はいずれも過去最高となる見込み。
- ✓ カテゴリーではCPS、SPS及びOTが、地域別では日本、中華圏及び東南・南アジアが牽引。
- ✓ 剰余金の配当については年間55円とし、過去最高となる見通し。

(単位：億円)	FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率	FY22 実績	前期比 (為替影響除く)
売上高	5,100	5,500	+7.8%	+2.4%	4,846	+11.8%
営業利益	370	460	+24.3%	+19.2%	340	+32.5%
営業利益率	7.3%	8.4%	+1.1ppt	-	7.0%	-
経常利益	320	420	+31.3%	+24.0%	309	+33.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	200	250	+25.0%	+16.8%	198	+23.9%

配当金	中間	期末	通期
前回予想	22.0円	22.0円	44.0円
今回予想	25.0円	30.0円	55.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
前回予想	125.00円	132.00円	19.00円
今回予想	135.00円	145.00円	19.50円

6.その他

- ✓ インバウンド
- ✓ サステナビリティにおける取組み
- ✓ 人的資本強化に向けた取組み
- ✓ IRカレンダー
- ✓ 地域別実績（累計・3ヶ月）
- ✓ 連結業績予想：カテゴリー別・地域別
- ✓ 株価及び指標の推移

インバウンド

- ✓ インバウンド売上高は第2四半期累計でFY19の約9割の水準まで回復。また6月単月ではFY19を超過。
- ✓ 今後、中国からの訪日客数の本格的な回復があれば、インバウンド売上高の更なる押し上げ効果を期待。

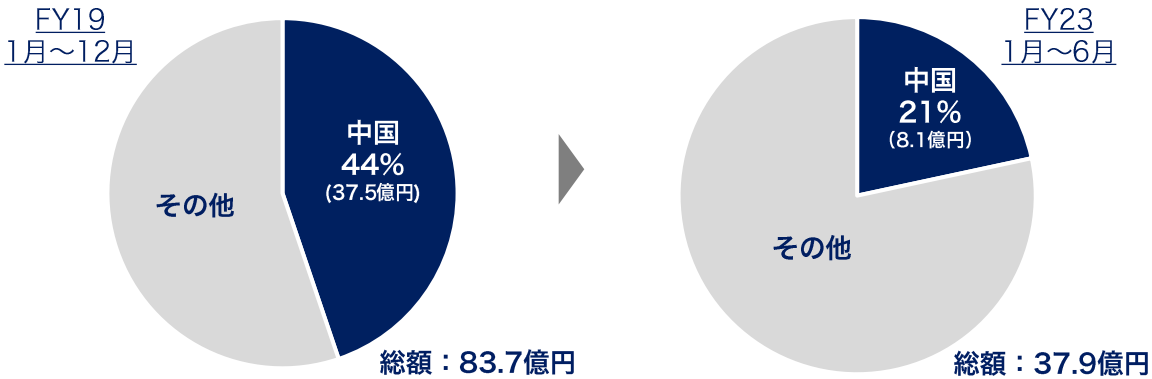
■1月～6月におけるインバウンド売上高

(単位：億円)	FY19	FY22	FY23
インバウンド 売上高	42.5	0.8	37.9
内、OT売上高	30.8	0.6	28.1

■6月単月におけるインバウンド売上高

(単位：億円)	FY19	FY22	FY23
インバウンド 売上高	7.2	0.2	7.8
内、OT売上高	5.3	0.1	5.9

■国別インバウンド売上高



■訪日外客数



出所：日本政府観光局（JNTO）

サステナビリティにおける取り組み

世界の人々の心身の健康とスポーツができる環境を守ることに貢献する

■基本方針

①サプライチェーン上の人権を尊重する

②2030年CO₂削減目標（事業所およびサプライチェーン）

BUSINESS AMBITION FOR 1.5°C   **OUR ONLY FUTURE**

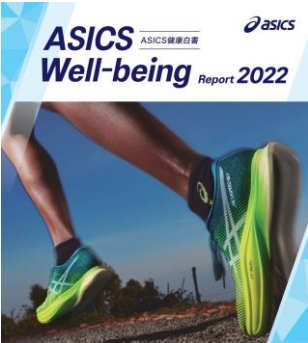
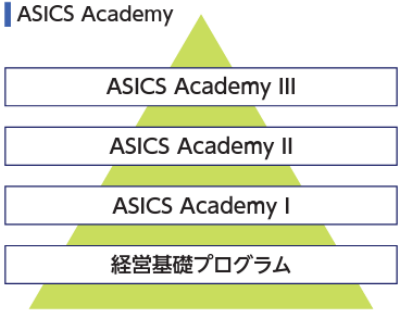
63%削減（2015年比）

People (人と社会への貢献)	Planet (環境への配慮)	開示・外部評価など
✓ ワールドアスレティックス（世界陸連）難民選手団をオフィシャルスポンサーとしてサポート ✓ 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟（JPA）とオフィシャルパートナー契約を締結  アシックス・日本パラ陸上競技連盟 契約締結発表会	✓ 「GEL-KAYANO 30」で、製品ライフサイクルで排出される温室効果ガス排出量を表示 ✓ 体を動かすことでCO₂削減に貢献できる「Run for Reforestation Challenge」をグローバルで実施 ✓ 経済産業省「カーボンフットプリントレポート」、環境省「カーボンフットプリントガイドライン（別冊）CFP実践ガイド」に先進事例として掲載  	✓ サステナビリティレポート2022を公開 ✓ ESG指標 MSCIのAA評価（上位30%以内）を4年連続して獲得 ✓ 現代奴隷法と透明性に関するステートメントを開示 

人的資本強化に向けた取組み

個人の多様性 × インクルーシブな組織 = イノベーションの創出

■主な取組み

従業員によるSound Mind, Sound Bodyの実現	グローバルでビジネスをリードする人財育成	D&I (Diversity & Inclusion) の推進
✓ 従業員のWell being 活動への参画促進 ✓ 働き方の多様性 - ー フルフレックス、在宅勤務 - ー ランニング、ウォーキング通勤 	✓ アシックスグループの人財の可視化（グローバルタレントマネジメントの推進） ✓ ASICS Academy（次世代リーダー育成選抜型プログラム）などのグローバル人財開発の強化 	✓ 女性管理職比率の更なる向上 ✓ 障がい者雇用の促進と環境の整備 ✓ 多様な国籍の社員がグローバルに働ける環境の整備 

<アシックスグループ（連結）>

エンゲージメントスコア	女性管理職比率
回答率79% スコア66 (2022年10月)	回答率84% スコア68 (2023年4月)
目標 35% (2023年度)	実績 38% (2023年6月)

<株式会社アシックス（単体）>

新卒女性採用率	育児休業取得率	障がい者雇用率	本社勤務従業員出身国
53% (2023年4月入社)	60% (男性)	100% (女性)	2.36%
			18カ国

主な予定

2023年12月期 第2四半期決算	8月8日	15:00	決算発表
		15:30	決算説明会 報道機関向け
	8月9日	15:00	決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
2023年12月期 第3四半期決算	11月10日	15:00 15:30	決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
インベストメントデイ	11月28日	15:00	「中期経営計画2026」公表（予定）
2023年12月期決算	2024年2月	未定	決算発表 決算説明会 報道機関向け 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け

2023年12月期 第2四半期地域別実績

(単位：億円)

日本	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	565	691	+126	+22.3%
為替影響除く増減		691	+126	+22.3%
営業利益	30	80	+50	+159.6%
営業利益率	5.5%	11.6%	-	+6.1ppt

アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	308	437	+129	+41.8%
為替影響除く増減		437	+129	+41.8%
営業利益	5	52	+47	+941.1%
営業利益率	1.6%	12.1%	-	+10.5ppt

北米	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	476	559	+83	+17.4%
為替影響除く増減		507	+31	+6.7%
営業利益	△5	5	+10	-
営業利益率	△1.2%	0.9%	-	+2.1ppt

欧州	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	630	783	+153	+24.4%
為替影響除く増減		717	+87	+13.8%
営業利益	71	79	+8	+11.3%
営業利益率	11.3%	10.1%	-	△1.2ppt

中華圏	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	289	404	+115	+39.6%
為替影響除く増減		390	+101	+35.0%
営業利益	59	84	+25	+42.4%
営業利益率	20.6%	21.0%	-	+0.4ppt

オセアニア	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	154	188	+34	+22.3%
為替影響除く増減		181	+27	+18.0%
営業利益	29	31	+2	+6.6%
営業利益率	19.1%	16.6%	-	△2.5ppt

東南・南アジア	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	80	134	+54	+66.9%
為替影響除く増減		125	+45	+55.9%
営業利益	14	29	+15	+107.6%
営業利益率	17.8%	22.1%	-	+4.3ppt

その他地域	FY22 (1-6月)	FY23 (1-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	202	242	+40	+19.3%
為替影響除く増減		226	+24	+11.9%
営業利益	14	26	+12	+84.6%
営業利益率	7.1%	11.0%	-	+3.9ppt

2023年12月期 第2四半期地域別実績 (3ヶ月期間)

(単位：億円)

日本	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	296	328	+32	+10.8%
為替影響除く増減		328	+32	+10.8%
営業利益	16	33	+17	+100.7%
営業利益率	5.5%	10.0%	-	+4.5ppt

アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	166	206	+40	+24.5%
為替影響除く増減		206	+40	+24.5%
営業利益	3	22	+19	+859.6%
営業利益率	1.4%	10.7%	-	+9.3ppt

北米	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	265	298	+33	+12.3%
為替影響除く増減		276	+11	+4.4%
営業利益	2	8	+6	+302.1%
営業利益率	0.8%	2.9%	-	+2.1ppt

欧州	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	322	339	+17	+5.6%
為替影響除く増減		310	△12	△3.7%
営業利益	31	14	△17	△54.7%
営業利益率	9.6%	4.1%	-	△5.5ppt

中華圏	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	154	213	+59	+38.3%
為替影響除く増減		210	+56	+36.2%
営業利益	23	39	+16	+70.1%
営業利益率	15.2%	18.7%	-	+3.5ppt

オセアニア	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	81	73	△8	△9.2%
為替影響除く増減		74	△7	△8.1%
営業利益	15	11	△4	△29.3%
営業利益率	18.5%	14.4%	-	△4.1ppt

東南・南アジア	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	44	65	+21	+46.9%
為替影響除く増減		62	+18	+39.7%
営業利益	8	12	+4	+53.8%
営業利益率	18.1%	19.0%	-	+0.9ppt

その他地域	FY22 (4-6月)	FY23 (4-6月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	110	112	+2	+1.0%
為替影響除く増減		107	△3	△3.2%
営業利益	7	8	+1	+10.1%
営業利益率	6.6%	7.2%	-	+0.6ppt

2023年12月期 連結業績予想：カテゴリー別

(単位：億円)		FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率	FY22 実績	前期比	為替影響を除く 増減率
P.RUN	売上高	2,730	2,870	+5%	△2%	2,582	+11%	+7%
	カテゴリー利益	530	530	-	△5%	491	+8%	+5%
CPS	売上高	610	680	+12%	+7%	541	+26%	+23%
	カテゴリー利益	95	120	+26%	+22%	94	+27%	+24%
SPS	売上高	480	540	+13%	+5%	434	+24%	+20%
	カテゴリー利益	75	100	+33%	+26%	64	+56%	+51%
APEQ	売上高	350	350	-	△4%	352	△1%	△3%
	カテゴリー利益	10	10	-	△5%	△16	-	-
OT	売上高	470	550	+17%	+14%	430	28%	+26%
	カテゴリー利益	80	120	+50%	+46%	73	62%	+60%

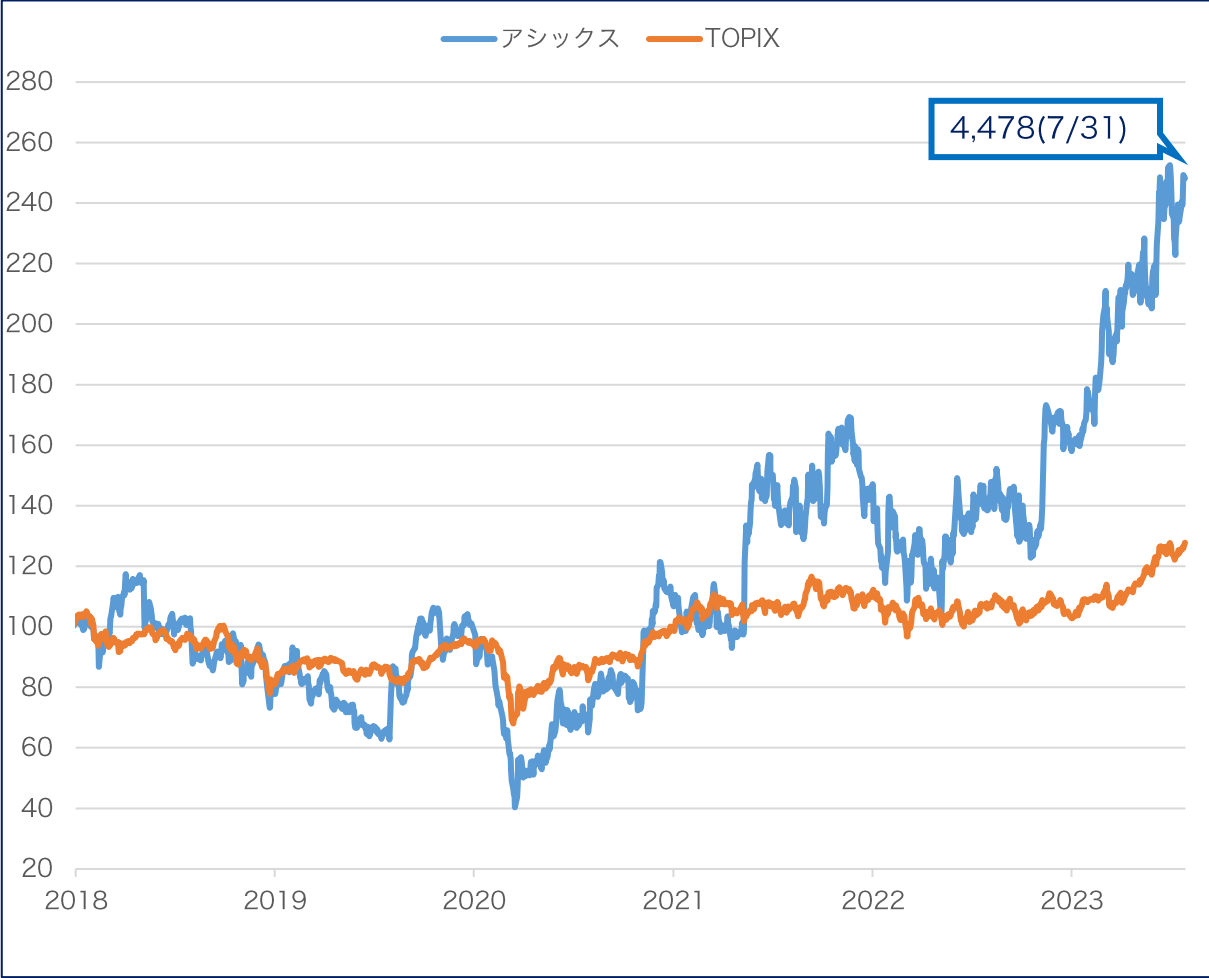
2023年12月期 連結業績予想：地域別

(単位：億円)		FY23 前回予想	FY23 今回予想	増減率	為替影響を除く 増減率	FY22 実績	前期比	為替影響を除く 増減率
日本 地域 ※	売上高	1,190	1,250	+5%	-	1,234	+1%	-
	営業利益	55	100	+82%	-	60	+65%	-
うち、 アシックスジャパン	売上高	745	800	+7%	-	672	+19%	-
	営業利益	30	60	+100%	-	14	+312%	-
北米 地域	売上高	1,080	1,150	+7%	△1%	1,053	+9%	+5%
	営業利益	20	10	△50%	△47%	0	-	-
欧州 地域	売上高	1,330	1,410	+6%	△3%	1,300	+8%	+3%
	営業利益	120	125	+4%	△5%	112	+11%	+5%
中華圏 地域	売上高	680	770	+13%	+10%	624	+23%	+22%
	営業利益	110	140	+27%	+23%	100	+39%	+38%
オセアニア 地域	売上高	385	365	△5%	△5%	332	+10%	+10%
	営業利益	60	60	-	-	52	+15%	+16%
東南・南アジア 地域	売上高	230	270	+17%	+11%	184	+46%	+41%
	営業利益	35	50	+43%	+36%	29	+68%	+63%

※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
 なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツなどの会社を含みます。

株価及び指標の推移

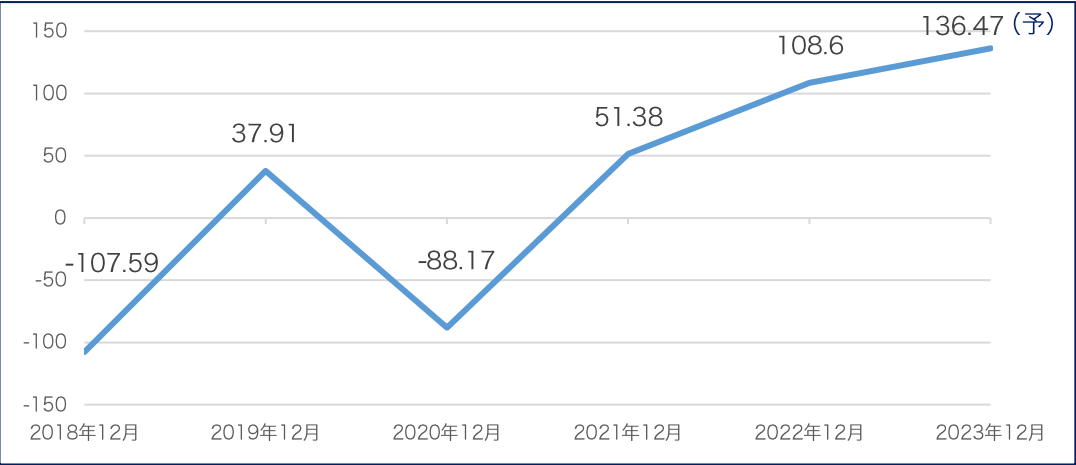
■株価推移 2017年末 - 2023年7月31日 ※1



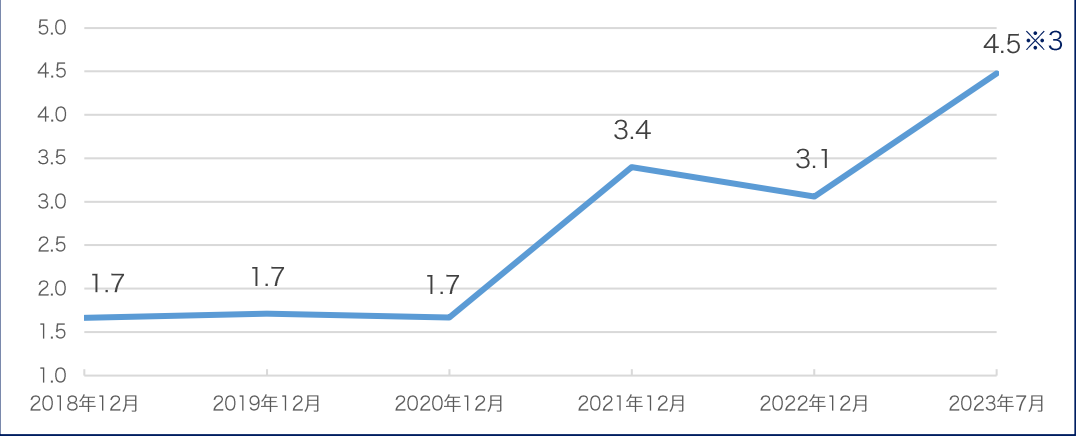
出所：ブルームバーグ

※1 2017年12月29日を100として指数化
 ※2 PBR算出方法：株価純資産倍率＝株価／1株当たり純資産額
 ※3 2023年7月31日時点

■ EPS推移



■ PBR推移 ※2



出所：ブルームバーグ

